

日本環境斎苑協会 特別シンポジウム

「火葬場の運営管理と総括火葬技術管理士」

出席者

- コーディネーター
奥村 明雄氏 (日本環境斎苑協会理事長)
- パネリスト
喜多村 悦史氏 (元東京福祉大学副学長)
横田 勇氏 (静岡県立大学名誉教授)
玉寄 将氏 (日本火葬技術管理士会会長)
斎藤 光明氏 (富士建設工業)
矢野 浩樹氏 (太陽築炉工業)

火葬場の近代化と運営管理の適正化に取り組む日本環境斎苑協会は、10月30日、横浜市のワークスペース横浜特別シンポジウム「火葬場の運営管理と総括火葬技術管理士」を開催した。そのシンポジウムの概要を紹介する。

火葬場のあり方

奥村 今、大都市部を中心に火葬場が不足し、増設、新設が進んでおり、立地難が大規模化している。適切な公営対策、地域住民の理解にも対応した上で、近隣地域の方々の対応に当たる。これが第一点です。

第二点は火葬場の職員の確保です。火葬は地域で共同作業で、みんなで遗体を火葬場まで運び、茶毘に付す。火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

喜多村 火葬場を取り巻いて、さまざまな社会的変化が生じています。アンテナを高く掲げて、対応していかなければなりません。

第一点として、地域住民の理解です。火葬場は絶対に必要な都市施設、人里離れた不便な立地は避けた。先行して住んでいる住宅地の方々へ、どのように気持ちよく受け入れていくかが課題です。私有財産権は其の利益に侵奪されなければならず、正当な経済補償による強制収用可能となります。火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

横田 近年、日常生活のあらゆる側面において、脱炭素化の波が押し寄せています。火葬場においても、脱炭素化への要請が強く出ています。火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

第二点として、火葬場の職員の確保です。火葬は地域で共同作業で、みんなで遗体を火葬場まで運び、茶毘に付す。火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

矢野 太陽築炉工業の矢野です。大阪府箕面市の市立聖苑で、死亡人口が増えたとともに、火葬場の設備が老朽化してきている。火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

第三点として、火葬場の社会的責任です。火葬場は地域で共同作業で、みんなで遗体を火葬場まで運び、茶毘に付す。火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

奥村 火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

第四点として、火葬場の運営管理です。火葬場は地域で共同作業で、みんなで遗体を火葬場まで運び、茶毘に付す。火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

喜多村 火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

第五点として、火葬場の社会的責任です。火葬場は地域で共同作業で、みんなで遗体を火葬場まで運び、茶毘に付す。火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

横田 火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

第六点として、火葬場の運営管理です。火葬場は地域で共同作業で、みんなで遗体を火葬場まで運び、茶毘に付す。火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

奥村 火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

第七点として、火葬場の社会的責任です。火葬場は地域で共同作業で、みんなで遗体を火葬場まで運び、茶毘に付す。火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

喜多村 火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

第八点として、火葬場の運営管理です。火葬場は地域で共同作業で、みんなで遗体を火葬場まで運び、茶毘に付す。火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

横田 火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

第九点として、火葬場の社会的責任です。火葬場は地域で共同作業で、みんなで遗体を火葬場まで運び、茶毘に付す。火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

奥村 火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

第十点として、火葬場の運営管理です。火葬場は地域で共同作業で、みんなで遗体を火葬場まで運び、茶毘に付す。火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

喜多村 火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

第十一点として、火葬場の社会的責任です。火葬場は地域で共同作業で、みんなで遗体を火葬場まで運び、茶毘に付す。火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

横田 火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

第十二点として、火葬場の運営管理です。火葬場は地域で共同作業で、みんなで遗体を火葬場まで運び、茶毘に付す。火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

格に加え、総括火葬技術管理士の養成が急務です。火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

奥村 火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

喜多村 火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

横田 火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

奥村 火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

喜多村 火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

横田 火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

奥村 火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

喜多村 火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。

横田 火葬場のあり方、火葬技術者のあり方を議論するのが、このシンポジウムのテーマです。